

隊 友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「韓国新政権の行方と

我が国の安全保障」その1

湘南支部長 中尾 剛久

今年は6月中旬から真夏日の連発で、東京では6月に入ってから13日の真夏日を観測し、梅雨明け前にもかかわらず、6月としての史上最多日数を更新したとのこと。異常な状態が続いていますが、支部会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？年とともにどんどん夏の暑さが厳しさを増し、心身ともにこたえるようになってきていると思います。

6月3日に韓国の大統領選挙が行われ、左派系の「共に民主党」から出馬した李在明(イ・ジェミン)氏が当選しました。前大統領の尹錫悦(ユン・ソンニョル)氏が昨年12月に唐突な戒厳令を布告したことからは始まった韓国の政治的混乱と空白が一応収まることは喜ばしいことだと思います。今後李大統領がどのような政権運営及び対日外交を進めるかは我が国にも極めて大きな影響があり、大変気になるところです。

李大統領はこれまで歴史問題に限らず、対日防衛協力に関しても否定的な言動が目立っています。我が国を「敵性国家」と名指し、尹政権の姿勢を「親日売国」と罵言するなど枚挙に暇がないほどです。

李大統領自身は相当苦しい少年時代を過ごし、小学校卒業後は少年工として働いたため中学校高校では学んでいないとのこと。政治を

志した経緯を見ても労働運動や市民運動に没頭し、社会変革を目指したことが動機であるとされている。学校で反日的な教育を受けたわけでもなく、元大統領の文在寅(ムン・ジェイン)氏のようにゴリゴリの親北反日主義者ではないのではないかと思います。

反目的なスタンスで我が国においては頗る評判の悪い、その文氏ですが、当初はそこまでの評価ではなかったと思います。文氏が大統領になって1年ほどの2018年2月、私は舞鶴地方総監として韓国海軍第1艦隊司令官との相互交流のために韓国を訪問しました。平昌(ピョンチャン)冬季五輪の開幕直前のこと。第1艦隊が所在する東海(トンヘ)市に赴く前に、在ソウル

日本大使館を訪れ、韓国内の状況について話を伺いました。当時の文政権に対する評価は、「親北過ぎるなど、いろいろな評価もあるが、防衛は別。北に備えて防衛力整備に力を入れている。予算も確保しようとしている。」というものでした。安心して交流行事に臨みましたが、確かに韓国海軍側の対応は実にフレンドリーで、真剣に我が国との防衛交流/協力を望んでいると感じました。ところが、その年の10月には国際観艦式における自衛艦旗掲揚問題が勃発し、12月には韓国海軍駆逐艦によるP-1哨戒機に対する射撃レーダー照射事件が生じます。その後もGSOMIAの破棄問題など、あれよと言う間に次々に

日韓の防衛協力に水を差すような事件が続きました。当時の大使館などの認識とはかけ離れた方針転換が短期間で起こったということになります。

李大統領は就任演説で「実用外交」の名のもとに、国益を重視し、米韓同盟を基盤に日米韓協力を強化する方針を示すなど、前尹政権の路線を概ね踏襲するような姿勢を示しています。実に喜ばしく、期待したいところですが、韓国における左右両派の対立は容易には解消されないでしょう。政策や方針の大転換が起こる可能性は常に存在すると思っておく必要があります。

一方で、我が国を取り巻く安全保障環境は、ご承知のとおりロシア、中国、北朝鮮という核武装をした権威主義国家に囲まれており、極めて厳しいものになっています。特に中国については、2027年が習近平中国共産党総書記の3期目最後の年であり、中国人民解放军の建军100年にも当たるため、この年までに台湾の武力統一に踏み切る可能性がクローズアップされ、台湾有事に関する議論が活発になっていきます。確かに最近の中国の動きはそれを彷彿とさせるものがあり、引き続きの注目と慎重な対応が必要なことは言うまでもありません。

ロシアについては、現在もウクライナとの戦争を継続中であり、極東方面において大規模な軍事行動を起こす余裕は当面ないのではないかと考えられます。

問題は北朝鮮です。私は中国以上に注意が必要であると思っています。その理由については三つほど考えられます。第1に、この国の国家体制が金正恩総書記の独裁と言つてよいものであり彼の独断で軍事行動を含めた政策が遂行可能な体制になっている。これは強力な指導者がいるにせよ、組織としての政府が機能している中国やロシアとは大きく異なる点です。組織として動いている限りは、政策変更を含む諸事に関して何らかの兆候が見られるものですが、独裁状態だと独裁者の意思決定のみで突然の方針転換が可能になります。

つづく

令和7年度部隊研修のお知らせ

支部理事役 高鹿 治雄

今年度の部隊研修は、陸上自衛隊朝霞駐屯地に隣接する朝霞広報センター等の研修を実施しますのでご案内申し上げます。

当支部では魅力ある支部活動の一環として部隊研修を実施していますが、ご存知のようにコロナ前後で自衛隊を取り巻く環境が大きく変わりました。特に自衛官の募集状況が厳しくなったため、コロナ前のように陸海空自衛隊の部隊研修を計画することは困難な状況です。今年度も直接部隊を研修するのではなく陸上自衛隊朝霞駐屯地に隣接する広報センターと振武臺記念館(旧陸軍士官学校皇族舎)研修を実施することにしました。



時間	内 容	備 考
12:45	和光市駅南口集合受付	東武東上線、東京メトロ有楽町線・副都心線
13:00	移動（市内循環バス）	集合完了次第出発（バス停「本町小学校前」下車）
13:30	部隊研修開始	朝霞広報センター「りっくんランド」で陸自朝霞広報官と合流、概要説明行動へ移動
13:35	朝霞駐屯地の概要説明	朝霞広報官による陸自朝霞駐屯地の概要説明
14:00	振武臺記念館見学	旧陸軍士官学校皇族舎の見学（説明ガイド依頼中）
15:00	朝霞広報センター	「りっくんランド」研修（自由見学）
16:00	部隊研修修了	和光市駅まで移動（徒歩、バス移動自由選択）
17:00	懇親会（有志）	和光市駅周辺（場所未定、参加費4千円程度）
18:30	懇親会修了・解散	和光市駅周辺の懇親会場で解散予定

- 1 研修日時 令和7年8月29日（金）
1330～1600（有志懇親会あり）
和光市駅集合・解散予定
- 2 研修先等（東京都朝霞市）
・陸上自衛隊朝霞駐屯地の概要説明
・振武臺記念館（旧陸軍士官学校皇族舎）
・朝霞広報センター「りっくんランド」
- 3 行動計画（鉄道移動基準）

- 4 参加者募集要領
- ① 募集人数 30名程度
- ② 募集対象 会員（正会員・特別会員）及び会員紹介者（学生・生徒大歓迎）
- 5 参加費等
- ① 陸自朝霞広報センター及び振武臺記念館見学科無料
- ② 懇親会参加費 4千円程度
- ③ 和光市駅までの交通費・昼食代等の経費は各人負担
- 6 申込要領
- ① 会員・氏名、連絡先（携帯番号、メルアド）、職業、懇親会参加の有無
- ② 一般参加者・氏名、紹介会員名、連絡先（携帯番号、メルアド）、職業、懇親会参加の有無
- ③ 申込期限・8月16日（土）
- ④ 申込先・部隊研修担当 高鹿治雄
kohroku@rokumeikan-icomnet.com
携帯電話 080-1133-0252
FAX 045-935-5162
- 7 その他
- ・服装は軽装（カジュアル）
- ・魅力ある部隊研修にするため、会員（正会員及び特別会員）の皆様の積極的な参加は勿論のこと、新規会員獲得と将来の自衛官募集を目指して、友人知人や募集対象になり得る学生、生徒達にも積極的な誘いをお願いします。

遺体安置所不足

支部理事役 鼓 達也

避難所がどこに開設されるかは大半の方が把握されていると思うが、災害時遺体安置所はどこに開設されるのか把握されている方は少ないのではないかな。

大きな災害時には、多数の死者の対応が必要となる。身元不明人・死因調査などを行うため遺体安置所が必要となる。防災基本計画では原則的に市町村が開設することになっている。ここでは主に遺体を一時的に安置して、警察による死因などの調査、身元確認用のDNA・歯型・指紋など採取、遺体をきれいにして遺族への引き渡しが行われる。

遺体安置所はどこに設置されるのだろうか？2024年の震災の際に石川県奥能登4市町では選定されておらず急遽葬儀場などが対応し混乱した。ある調査で岩手・宮城・福島3県の127市町村の遺体安置所を確認したところ、事前に定めているのは44市町村で、定めていないのは80市町村であった。津波で死者が多かった沿岸部でさえ未選定が目立つ結果となった。定めている市町村でも12市町村は具体的な設置場所を定めていない理由は施設管理者や周辺住民の理解が得られにくい事であり不足状態が続いている。確かに避難施設が近所にできるとを反対する人は少ないと思うが遺体安置所が近所にできるということにはネガティブな感情を持たれてしまう可能性は否めない。

自治体では、遺体安置所の訓練を実施しているがまだ少ない、自治体の防災訓練ではどうしても生存者の対応が優先され、死者や遺族の対応まで訓練することは著者としては少ない印象である。南海トラフ地震など被害想定が公表され死者数も予測されており対応は必須である。

大きな災害時に死者は必ず発生する。平時より遺体安置所の設置運営訓練が必要である。自身の家族や友人が災害時だからと雑に扱われたらどのような気持ちになるだろうか。死者や遺族が安心できる仕組み作りも大切である。

令和7年度年会費納入者（順不同・敬称略）

湘南支部長（七月一日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

上げます。

特別会員

田邊明生、

正会員

森崎賢治、鶴岡 暁、松村昭男、

新入会員のお知らせ（順不同・敬称略）

正会員

・ 佐々木信二 元陸上自衛隊

・ 湊 由樹 元陸上自衛隊

「支部の予定」

- ・ 08/02（土） 第5回支部理事役会
- ・ 08/18（月） 8月号隊友紙発送
- ・ 08/29（金） 陸自広報センター研修
- ・ 09/13（土） 第6回支部理事役会
- ・ 09/22（月） 9月号隊友紙発送
- ・ 10/11（土） 第7回支部理事役会
- ・ 10/中旬 名所旧跡探勝

編集後記

気象庁によりますと、6月21日から活発になっていくとカラ列島近海を震源とする地震活動が、7月14日までに震度1以上を観測した回数が200回にのぼることを発表しました。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。